

# 「考える・感じる・行動する」～坂小体験活動～

坂町立坂小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 自然 交流 勤労生産

体験活動場所・宿泊場所 江田島市内民泊各所・国立江田島青少年交流の家

## 【学校紹介】

### ○学校の特徴

坂小学校は、JR 呉線より北側の海面埋立地である比較的新しくできた住宅地と、JR 呉線南側の地形が急峻で平坦な土地が少なく、棚田も見られる傾斜地から校区が構成されており、校区内に海も山も見られる。

また、坂小学校は、明治5年に西林寺の仏堂を西基館と称して読書や習字を教え始めたことにその始まりを求めることができ、昭和25年に町制施行に伴い坂町立坂小学校に改称され現在に至っている。

「自ら学び、自ら考え、心も体も健やかに生きる児童の育成」を学校教育目標に掲げ、児童には、「最後までがんばる子」「考えを深め合う子」「正直で優しい子」「運動が大好きな子」の目指す子ども像を提示し、学校教育目標にせまろうとしている。豊かな自然や文化とのふれあいのなかで郷土愛が育まれる学校、一人一人の子どもの「よさ」に着目する学校、保護者・地域とともに歩む開かれた学校を目指して、日々教育実践を積み重ねている。児童は地域と密接につながり、素直に人の話を聞き、落ち着いて行動する姿が見られるようになってきている。

○校長名：大松 宏昭

○児童数：413名（15学級）

○所在地：広島県安芸郡坂町坂東二丁目22番1号

○電話番号：082-885-0002

○URL：<http://www.town.saka.hiroshima.jp/saka-e/>



## 【体験活動のねらい】

- 学校や家庭では体験しにくい活動を行い、協同、友愛の精神を養い、心身ともに健全な児童の育成を図る。
- 集団宿泊活動を行うことで、規律ある行動の大切さを体験的に理解させ、一人一人の社会性を育てる。
- 海や山などの自然と触れ合う体験活動を通して、自然に親しみ、自然を大切にしようとする気持ちを育てる。

## 【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
5～6月	○オリエンテーション	1	総合的な学習の時間	学校	担任
	○宿泊学習説明会	1	総合的な学習の時間	学校	担任
	○民泊体験に関する事前学習	3	総合的な学習の時間	学校	担任

6～7月	○自然愛・環境保全 「コウノトリが再び空に羽ばたく日」3－(2)	1	道徳の時間	学校	担任
	○米作り～チャレンジ！パケツ稲 ・事前調べ ・土作り，田植え ・米作りのまとめ	12	総合的な学習の時間	学校	担任
	○宿泊体験に関する事前学習	2	総合的な学習の時間	学校	担任 養護教諭
9月	○報告書の書き方 ○活動のメモの取り方	2	国語科	学校	担任
	○事前学習 ・民泊先の希望，事前調べ ・挨拶状の作成 ・目標設定 ・準備，活動練習	10	総合的な学習の時間	学校	担任
	○活動班，役割分担決定	2	学級活動	学校	担任
9/11(水) ～ 9/14(土)	◎宿泊体験学習 ○民泊先家業体験活動 ・入島式 ・各民泊施設のプログラムによる家業体験 ○宿泊施設体験活動 ・カプラ活動 ・お礼の手紙作成 ・野外炊飯活動 ・キャンプファイヤーの練習・準備 ・キャンプファイヤー ・オリエンテーリング	24	総合的な学習の時間 社会科 国語科 家庭科	①江田島市内民泊先家庭  ②国立江田島青少年交流の家	担任 民泊先家庭  学校職員 施設職員
9～11月	○活動報告書の作成	2	国語科	学校	担任
	○男女の協力・信頼友情 「音楽会」2－(3)	1	道徳の時間	学校	担任
	○刷り重ねて表そう ・図工版画（体験活動）	8	図画工作科	学校	担任

	○学習発表会 ・体験活動の劇，群読	11	総合的な学習の時間 学校行事	学校	担任
--	----------------------	----	-------------------	----	----

### 【体験活動の概要】

#### ○江田島市での民泊体験

本校では、3名～4名のグループに分かれ宿泊活動の一日目を江田島市の協力家庭、19ヶ所に宿泊してそれぞれの家での家業体験活動を行った。

漁業を営んでおられる家庭では、実際に船に乗って海や無人島での魚釣りを行ったり、養殖魚の生簀に行き、魚を捕まえたりする漁業体験を行うことができた。近くに海のある本校児童たちであるが、普段は体験できない水産に関わる家業を体験的に学習することができた。

また、農業を営んでおられる家庭では、野菜の収穫などを行った。収穫した野菜や果物を民泊先の家族の方と調理し、一緒に食べることで、食に関する感謝の気持ち、食材や調理に関する興味をもつことができた。

他にも、民泊先の家業によって、特色のある体験活動を行うことができた。例として、お寺での家業体験、乗馬体験、介護施設体験、カーン体験など、それぞれの児童のグループによって多種多様な体験活動を行うことができた。

それぞれの民泊先家庭では、家族のように接していただくことができ、時間の経過とともに児童の方から積極的にコミュニケーションを取るようになり、仕事や作業を率先して行うことができるようになった。



無人島の説明



お寺での講



離島式



カレーの作り方の説明



カプラ

#### ○青少年交流の家での体験

- ・事前に各役割を一人一役（班長，レク，時計，保健，食事など）に設定し、それぞれの役割の準備をさせるとともに事前に練習させた。責任感と主体性をもたせるよう、体験活動に臨ませた。

#### ・野外炊飯活動

児童同士で、手順を確認しながら火を起こしたり、食材を調理したりした。前日の民泊体験で夕御飯の調理を経験している児童が多く、食に対する興味や、感謝の気持ちをもちながら調理することができた。

#### ・カプラ体験

仲間と協力し、設定した課題（高い造形物）に向けてカプラの作品を共同して創りあげることで、仲間意識を高めたり、作戦タイムを通して個人の意見を集団で収斂したりしながら一つにまとめていくことができた。

#### ・ウォークラリー体験

班員すべてが協力しないと達成できないミッションを用意した。



ウォークラリー

協力が必要な場面を設定することでみんなで話し合ったり、応援し合ったりと自然と班の仲が良くなり、楽しんで活動することができた。

**【体験活動の効果を高める事後学習】**

○活動報告書作成（国語科）

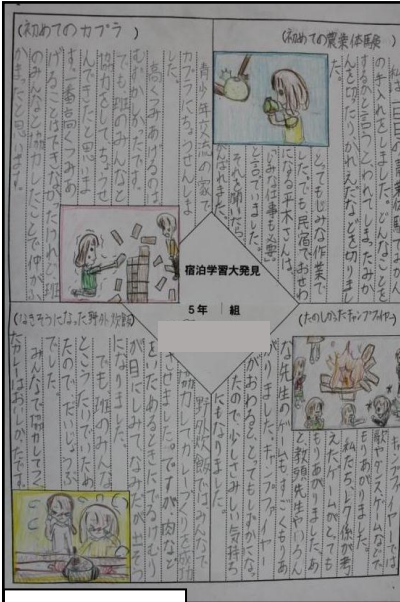
国語科「活動を報告する文章を書こう」の単元と関連させて、事前に報告書を書く事を伝えてメモの取り方や、しおりの活用法を指導し、主体的に活動に参加させるようにした。宿泊先での活動を振り返りながら、体験し考えたことや感じたことを報告書として総括させた。

○「一版多色版画」作成（図画工作科）

体験活動で心に残った場面を振り返り、図画工作科「刷り重ねて表そう」で、体験活動の様子を多色刷り版画で表現させた。

○学習発表会（学校行事）

宿泊先で体験した様々な出来事や身につけた力を劇形式で発表した。それぞれが経験した家業体験の紹介や、青少年の家で学んだことを他学年の児童や保護者、地域の方に伝えることができた。学習発表会の振り返りでは、他の児童が劇を見た反応から自分たちの成長を実感することができた。



活動報告書



一版多色版画



学習発表会

**【交流先や施設等との連携】**

- ・民泊先の家庭と児童の安全面に関する打ち合わせを行った。
- ・江田島市役所の方と細かな打ち合わせを行った。担当者の方と、メールや電話でスケジュールや家業体験の打ち合わせを複数回にわたって行った。
- ・家業体験中は、担当者と同行して各家庭を回り活動の様子を観察した。

**【評価の工夫】**

- ・体験活動のしおりでは、活動前に設定した身につけたい力「考える・感じる・行動する」に関連させた自己目標、班目標を設定させた。体験活動後は、その日のうちに項目を絞り、視点を明確化した振り返りシートで自己目標に合わせた振り返りを行わせた。
- ・体験活動を（午前1つ・午後1つ）と精選し、1つ1つの活動を最後

「考える・感じる・行動する」  
に関連させた振り返り

＜「目を振り返って」＞					
よくできている も少し△	できている できなかつた×	11日 (水)	12日 (木)	13日 (金)	14日 (土)
1	～考える～ 相手の気持ちを考えて話すことができた。				
2	～考える～ 自分から考えて動いた。				
3	～考える～ 活動の時間をきちんと守った。				
4	～行動する～ 自分の仕事の本任を果たした。				
5	～行動する～ 時間通りに、静かに集合できた。				
6	～行動する～ ルールを守って行動した。				
7	～考える・行動する～ 自分で判断し、進んで行動することができた。				
8	～感じる～ 自然を感じる事ができた。				
9	～感じる～ 自然を大切にした。				
10	～感じる～ 友達を大切にした。				



までやりきらせるよう、引率した全ての教師で声かけを行った。

### 【安全面の配慮事項】

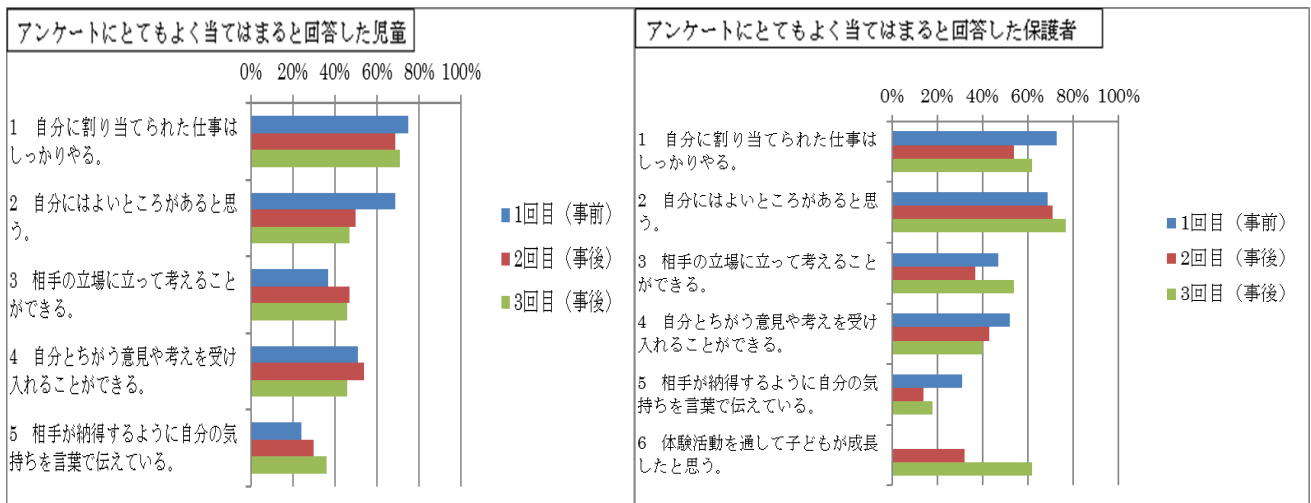
- ・健康アレルギー調査を事前に実施し、配慮する点について民泊先の家庭、施設と詳細に連携をとった。
- ・毎朝、健康観察を行い児童の体調に配慮した。また、緊急のけがや、病気に対処するために車両を用意したり、各活動において役割をふっていない引率者をおいたりするなど迅速に対応できるように配慮した。

### 【体験活動の成果と課題】

#### ○成果

児童にアンケート調査を行った結果、体験活動前と活動後で、質問項目の「3 思いやり」、「4 協調性」、「5 コミュニケーション能力」に関する項目を肯定的に捉える児童が増えた。

今までに体験していないことや、集団で協力する場を通して、他者とかかわる力を大きく伸ばすことができた。



保護者にアンケート調査を行った結果、体験活動を通して子どもが成長したと感じる保護者の割合が高くなった。

#### 保護者の声

- ・自分の身の回りの事ができるようになった。
- ・周囲の人への感謝の気持ちをもつとともに、自分がどう接し、何を行えばよいか判断できるようになった。
- ・周りを意識している言動がみられるようになった。

#### ○改善点

児童へのアンケートでは、「自分にはよいところがある」の項目が体験活動実施及び事後に自己評価が下がっている。他者とかかわる力が伸びた反面、自分はいまよくできないと感じる児童が増えたのではないかと考えられる。

今後は、他とのかかわりの中で、互いに認め合う関係づくりをし、「自分は役に立っている」、「自分は必要とされている」という自己肯定感を高めていく指導をより継続していく必要がある。